

本年度の校内研の概要について

1 校内研究主題名

研究主題 読み取る力を高める指導の工夫

～ 国語科における「説明的な文章の解釈」に関する指導を通して ～
《3か年計画・第1年次》

2 研究主題設定の理由

○ 社会的情勢及び教育的課題から

近年、科学技術の進歩や情報化・国際化の進展など急速な社会の変化の中で、児童を取り巻く環境や価値観は多様化してきている。この社会の中で、数多くの情報に惑わされることなく自分の考えを持って生きるためには、確かな知識に基づいて自ら考え判断し、よりよく問題を解決する「生きる力」の育成が不可欠である。そのことは、平成23年度から実施される新学習指導要領でも改訂の基本方針として述べられている。

○ 研究経過及び児童の実態から

本校では、これまで平成19年度、20年度は、「小学校における英語活動等国際理解活動推進事業」における拠点校として文部科学省・県教育委員会の指定を受けた。また、21年度は、英語活動（外国語活動）を通し、教材や場の設定を工夫することで、児童対教師、児童対児童が双方向のやり取りをできるようなコミュニケーション能力の育成を校内研究の柱に位置付けた。この結果、児童は、相手と一緒に楽しんだり、相手に積極的に働きかけたり、相手の意図を汲み取りながら活動したりすることができるようになってきた。

また、本校の児童は、明るく、のびのびとしており、決まったことや指示されたことに対してはしっかりとまじめに取り組むことができる。

しかし、一方で、主体的、論理的に考えたりして判断することが苦手である。授業中の発表や公の場での発言に対しては消極的な面がみられる。また、文部科学省全国学力学習状況調査・佐賀県学習状況調査においては「書く力」「論理的な思考」「活用力」に弱さが見られた。このことから、「ことばや表現に即して正確に理解する」「思考力を働かせながら表現する」ことが本校児童の課題であると考え、そのために国語で読み取る力を付けていくことが急務となった。

○ 本校の学校教育目標から

本校では、「自ら学び自ら行動する人間性豊かな子どもの育成」を学校教育目標に掲げ、「やさしい子」「賢い子」「元気な子」を、目指す児童像として日々の教育活動を展開している。「自ら」を主体性と自主性、「豊かさ」を「賢さ(知)」「優しさ(徳)」「元気さ(体)」の調和ととらえ、そのために意欲的な態度、知識・技能や体力を身につけさせておくことが教育の大切な責務であると考えている。児童が自ら考えたり、判断したり、表現したりするためには、その土台となる言語の能力を高めることが必要であり、言語の能力を高めるためには、国語科学習の充実が重要であると考えている。

そこで、今年度から、国語科を研究教科の中心にすえ、記述に即して確かに読み取る力や思考力を働かせて主体的に読み取る力を高めることを目指し、研究を進めることにした。

以上のことから、研究主題「読み取る力を高める指導の工夫 ～ 国語科における『説明的な文章の解釈』に関する指導を通して～」を設定した。

3 研究目標

- 国語科の「説明的な文章の解釈」の指導を中心に、言葉や表現などの記述に即した確実な読みの力や思考力を働かせた主体的な読みの力を身に付けた児童の育成のための指導のあり方を探る。

4 研究仮説

- 国語科の「読むこと（説明的な文章の解釈）」の指導において、身に付けさせたい力を明確にして、適切な言語活動を取り入れたり、指導を工夫したりすれば、児童に言葉や表現などの記述に即した確実な読みの力や思考力を働かせた主体的な読みの力が身に付くであろう。

5 研究内容

- 「指導構想」について
 - 学年別研究テーマ（付けたい力）について
 - 「読むこと」の系統性の明確化について
 - 目標設定と評価規準，評価方法と視点について
- 「環境整備」について
 - 校内および各教室の学習環境について
 - 「読むこと」を意識したスキルタイムなどのプリント作成
 - 学習の土台となる学習習慣作り
- 「資料編成」について
 - 指導案の形式について
 - 指導案に基づいた実践事例について
 - 「読むこと」の実態把握について
 - 研究紀要原稿の取りまとめ

6 研究方法

- 研究推進委員会，全体研修会を開き，研究の方向性を決定したり共通理解を図ったりする。
- 講師招聘を行って，理論研究や実践研究に役立てる。
- 先進校への視察や研究発表会への参観を行って，情報収集や授業実践に生かす。
- 児童の「読むこと」についての実態調査を実施して，子どもの意識の変容を捉える。
- 全校授業研究会及び学年部ごとのグループ授業研究会（年各3回）を行って，仮説の検証を行ったり授業実践力を高めたりする。同時に，実践事例の収集を行う。
- 学力対策会を活用して各種学力検査や各種テストの結果を分析し，指導の重点を明確にする。
- 年度末に研究紀要を作成し，研究内容を共通理解し，成果と課題を次年度へつなげる。

7 研究組織

